



# 『東北圏だより』

## 「第3回国連防災世界会議が仙台で開催されます」

3月14日から18日までの5日間、仙台で第3回国連防災世界会議が開催されます。この会議は、グローバルな防災戦略について議論する国連主催の会議で、第1回は横浜（1994年）、第2回は兵庫（2005年）で開催されました。

仙台的会議では、前回の兵庫会議で採択された国際的な防災の指針である兵庫行動枠組（HFA）の成果を検証し、その後継となる枠組について議論されます。このHFAの成果検証と後継枠組について議論する国連主催の本体会議には、193の国連加盟国、国際機関、NGO等から5,000名を超える人々が参加する予定であり、東北ではこれまでに例のない大規模な国際会議です。

仙台市では仙台開催実行委員会を組織し、国連・日本政府と連携しつつ開催準備にあたってきました。実行委員会には地元関係機関のほか、東北6県にも参画いただいております。国内外から多くの方が集まるこの会議を、東日本大震災の経験と教訓を世界に発信することはもちろん、仙台・東北の魅力や復興の状況を広く発信し、震災以降落ち込んでいる東北の交流人口の拡大に繋がる機会にしたいと考えております。

会議期間中は、一般の方には非公開となっている本体会議のほかに、パブリック・フォーラムとして、どなたでも参加できる多数のシンポジウム・展示会が開催されます。パブリック・フォーラムでは、政府機関や自治体、企業、大学、NPOなどの国内外の様々な団体が、多様なテーマで防災に関する情報を発信することとなっています。シンポジウム・セミナーの数が約400、展示の数がブース展示とポスター展示を合わせて300を超えるなど、パブリック・フォーラムだけを見ても、防災に関する非常に大規模なイベントとなっています。

この国連防災世界会議は、世界の皆様をお迎えし、世界に向けて仙台・東北の経験と教訓を発信していくことはもちろん、私たちの未来のために、私たち一人一人が、もう一度防災について学び、考え、より災害に強い未来を築いていくための貴重な機会です。会期中は、ぜひパブリック・フォーラムに足をお運びください。

会議の詳細な情報やパブリック・フォーラムのプログラムなどは、下記のホームページに掲載しております。

→ <http://www.bosai-sendai.jp/>（第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会のホームページ）

### 仙台市



▲会議公式ロゴマーク



▲1月中旬から始まった歓迎フラッグ  
掲示の様子



▲本体会議のメイン会場となる  
仙台国際センター展示棟



▲パブリック・フォーラムの展示会として実施する  
「東北防災・復興パビリオン」イメージ図  
（せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア）

去る2月23日東北で5番目の都市として、歴史的風致維持向上計画が認定されました。

国見町は福島県中通りの北端に所在する、人口約1万人の町です。福島県と山形県米沢盆地・宮城県仙台平野をむすぶ南東北の中央に位置し、古代から幹線道路が縦横に通る交通の要衝地でした。

今年で合併60周年を迎える当町は、雄大な山並みと美しい自然に囲まれ、旧宿場町や農村集落には特色ある歴史と文化・伝統が息づいています。

計画では7つの歴史的風致を取り上げ、各風致の課題・方針から15の事業を今後10年間かけて実施することを決めました。特に、町の歴史性の根源として800年の間守られてきた国史跡「阿津賀志山防塁」を中核とする重点地区には、勇壮な「鹿島神社例大祭」や「農業市・だるま市」「水利用」などの伝統的な祭礼や生活文化が継承され、地域固有の石材資源を用いた建築・加工技術を元とする産業が受け継がれています。

区域内では、阿津賀志山防塁史跡整備事業や国登録文化財「奥山家住宅洋館・主屋」周辺の景観向上に向けた整備に取り組むとともに、交流や情報発信の拠点施設として「道の駅」の建設を進めます。

また、重点区域外にも神楽を継承する「内谷春日神社例大祭」や「講」のコミュニティを残す集落の活動が存在し、無形民俗文化財活動支援事業や文化遺産の総合的把握に向けた調査事業などを行い、保護・継承につなげていきます。

本計画により、当町の多様な文化や風習・自然・人々の思いなどに光をあて、見過ごされることもあった「たからもの」を再認識することができました。人口減少・少子高齢化への対策に加え、東日本大震災からの復旧・復興に取り組む国見町にとって、本計画は町の再生に向けたまちづくりの軸となるものと考えます。

奥州藤原氏の時代から1000年培われてきた知恵・文化・歴史を受け継ぎ、未来へ伝えるため計画を推進していきます。



▲阿津賀志山防塁での顕彰・教育活動



▲鹿島神社例大祭の「もみあい」  
\*還御する神輿と押し戻す山車が激しくぶつかり合う



▲奥山家住宅洋館

↓計画の詳細

[http://www.town.kunimi.fukushima.jp/groups/kikaku/kikakujocho/rekishi\\_fuchi\\_plan/index.html](http://www.town.kunimi.fukushima.jp/groups/kikaku/kikakujocho/rekishi_fuchi_plan/index.html)

東日本大震災から4年。この大震災で犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、今なお応急仮設住宅等での不自由な生活を余儀なくされている方々など、被災者のみなさまに対して心からお見舞い申し上げます。

被災から当初の5年間としている集中復興期間もいよいよ最終年となります。岩手復興局としても引き続き被災自治体に寄り添いながら、より一層復興を加速化させ被災者のみなさまが一日でも早く生活再建できるよう各種取り組みを引き続き進めて参ります。



▲ 柁内災害公営住宅

(大槌町：13戸 H26.12完成)



▲ 下和野災害公営住宅

(陸前高田市：120戸 H26.9完成)

産業支援関連では平成27年2月5日に大船渡市で「第9回地域復興マッチング『結の場（ゆいのば）』」が開催されました。

「結の場」は、被災地企業が抱える課題を大手企業等が有する技術やノウハウ等を提供して解決につなげるワークショップです。平成24年度から開始し、これまでに100近いプロジェクトが進められています。

▲ 地域復興マッチング「結いの場」  
(ワークショップの様子)

岩手県では昨年度に続き2回目の開催となり、大船渡市・陸前高田市・釜石市の水産加工業や製造業等の地元企業9社と、大手等支援提案企業26社が参加しました。

テーブル毎に地元企業と大手等支援提案企業による対話を行い、経営課題の把握・深堀等終始活発な意見交換が行われました。

今後は、大手等支援提案企業から支援提案が行われ、地元企業と支援内容の検討、マッチングに向けての調整を行い、プロジェクト事業がスタートします。地元企業の経営力強化を期待いたします。

## 編集後記

3月11日で東日本大震災から4年が経過します。私も沿岸被災地の出身ですが、毎年、震災で亡くなられた方々の名前が刻まれた慰霊碑に手を合わせると、犠牲になられた方々の無念さや最愛の家族を失われたご遺族の悲痛な叫びが胸に迫る思いがします。3月11日午後2時46分には、震災で犠牲になられた方々に哀悼の意を表し黙祷を捧げ、心からご冥福をお祈りいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp